

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

平成30年03月30日

計画の名称	鉄道立体による地域間交流の円滑化計画（防災・安全）（交通拠点連携集中支援）												
計画の期間	平成30年度 ~ 平成30年度（1年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	横浜市												
計画の目標	天王駅付近から横浜新道付近にかけて鉄道を高架化することにより、地域交通の円滑化及び、地域の一体化による生活環境の向上や踏切事故の解消を図ります。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,829	A	1,829	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	事業区間内の開かずの踏切数を8箇所削減する。 事業区間内の開かずの踏切数（ピーク時の踏切交通遮断時間が40分以上の踏切）	H30当初 8箇所	箇所	H30末 0箇所

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
連続立体交差事業の通常補助制度創設に伴い、計画を変更する。												

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	H32	H33	H34			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	横浜市	直接	横浜市	S街路	改築	星川天王町駅間連続立体 交差	鉄道高架 1.9km	横浜市						1,829	1.2	-
											小計						1,829		
											合計						1,829		

交付金の執行状況

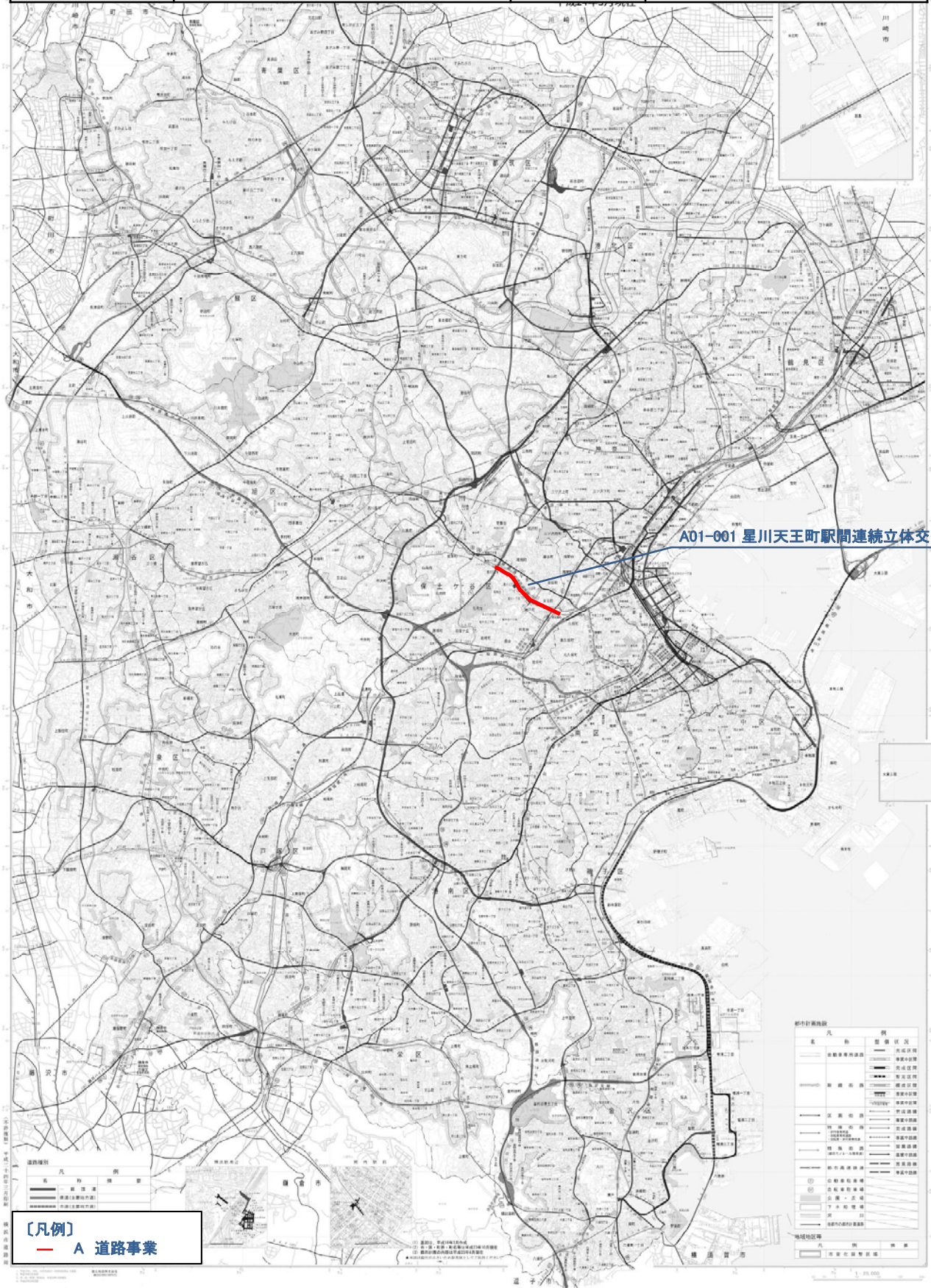
(単位：百万円)

	H30	H31			
配分額 (a)	1,829	0			
計画別流用増 減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	1,829	0			
前年度からの繰越額 (d)	0	839			
支払済額 (e)	990	839			
翌年度繰越額 (f)	839	0			
うち未契約繰越額(g)	0	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0			
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0			
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

(参考様式3)

参考図面

計画の名称	鉄道立体による地域間交流の円滑化計画 (防災・安全) (交通拠点連携集中支援)		
計画の期間	平成30年度～平成30年度 (1年間)	交付対象	横浜市



【凡例】

— A 道路事業

A01-001 星川天王町駅間連続立体交差